

令和5年8月4日(金)

指導者 三宅 公子

1 教材名 中心人物を見つけよう 「たぬきの糸車」(C 読むこと)

2 ねらい

中心人物は誰かという問いに対して、登場人物の気持ちや行動の変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、「物語の中で気持ちや行動がもっとも大きく変化しているのが中心人物」という原則を活用して解決することができる。

3 本時で取り上げる言語活動

物語を読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(関連:[思考力, 判断力, 表現力] C(2)イ)

4 授業構想と探究への手立て

本教材は、[思考力, 判断力, 表現力等 C読むこと]において、(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること」を重点指導事項としている。本時で取りあげる物語「たぬきの糸車」は、中心人物を捉えにくい物語である。中心人物はたぬきであると考える児童と、おかみさんであると考える児童の思考のズレを「問い」として設定し、「答え」を見つける過程で「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること」ができるようにしたい。

また、この物語を、単なるたぬきからおかみさんへの恩返し物語であると解釈すると、最後の段落のたぬきの描写に違和感が生まれる。「そして、うれしくてたまらないというように、びよんぴよこおどりながら、かえっていきましたとき。」という一文である。何が嬉しかったのか、恩返しをできたことが嬉しかったと捉えられないこともないが、「うれしくてたまらない」には他の理由があるのではないかと考えられる。これらから、この物語は恩返し物語でもあるが、それと同時に、糸車の存在を知らなかったたぬきが、糸車と出会い、夢中になり、自分で糸をつむげるようになって嬉しくてたまらないという気持ちの変化をも表現している物語だと考えられる。

本時では、まず児童が問いをもつために題名を隠して物語を紹介する。「の糸車」のに当てはまるのは誰かという課題から、題名と中心人物が大きく関係していることを知っている子どもたちは、「中心人物は誰だろう？」という問いをもつであろう。この問いを解決するために登場人物の気持ちと行動を意欲的に考えられるようにしたい。さらに二人の気持ちを心情曲線で表すことで、視覚的に気持ちの変化を捉えられるようにしたい。しかし、この段階でおかみさんの気持ちが一貫してたぬきへの愛情であることは捉え易いが、たぬきの気持ちが明確に変化しているとは言い難く、なんとなく気持ちが上がっているから、中心人物はたぬきであるという程度である。そこで、たぬきと糸車の関係についてもう一度叙述をもとに読み直し、3つ目の心情曲線を描くことで、たぬきが「まいばんまいばん、糸車をまわすまね」をしていたことや、冬の間ずっと糸車をまわしていたこと、おかみさんのように上手に回せるようになったことなどがうれしくてたまらないということに気付けるようにしたい。また、まとめでは、糸車はおかみさんの所有物ではあるが、たぬきが自分の物のように使いこなせるようになったことから、題名が「たぬきの糸車」であるということに気付けるようにしたい。

## 5 本時の学習

### (1)目標

中心人物は誰かを考えることを通して、登場人物の気持ちや行動の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(思考力, 判断力, 表現力)

### (2)展開

学習場面と児童の取り組み	目指す姿と取り組みを支える手立て
<p>1. 物語を読み, 大体の内容を捉える。 題名の空欄から, 中心人物は誰かという問いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たぬきが中心人物だと思うから, 「たぬきの糸車」じゃないかな?</li> <li>・気持ちが大きく動いているのはおかみさんだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名「<input type="text"/>の糸車」の<input type="text"/>に入るのは誰かを問い, 今日めあてにつなげる。</li> <li>・中心人物とは, 物語の中で気持ちや行動がもっとも大きく変化する人物であることを確認する。</li> </ul>
<p>気持ちや行動がもっとも大きく変化している【中心人物】はだれかを考えよう。</p>	
<p>2. 登場人物の気持ちや行動が分かる部分に線を引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちはあまり書いてないな。</li> <li>・行動ならあるよ。</li> <li>・行動から気持ちが分かるところがあるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている児童には, 気持ちを表す言葉を見つけるように促し, 登場人物の感情を読み取れるようにする。</li> </ul>
<p>3. 登場人物の気持ちと行動を考える。</p> <p><input type="text"/> <b>おかみさん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いたずらばかりしているから怒っているのかな。</li> <li>・おもわずふき出しそうになったって書いてあるから, おかみさんはあまり怒ってないんじゃない?</li> <li>・たぬきのことをかわいって言っているね。</li> </ul> <p><input type="text"/> <b>たぬき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おかみさんに助けてもらって感謝しているよ。</li> <li>・最後に「うれしくてたまらない」と書いてあるね。</li> <li>・おかみさんに恩返しできたことがうれしいのかな。</li> <li>・自分も糸車が回せてうれしかったのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思わずふき出しそうに」「いたずらもんだがかわいいな」などの叙述をもとに, おかみさんは一貫してたぬきのことをかわいと思っていることに気づけるようにする。</li> <li>・助けてくれたおかみさんへの恩返しの気持ちがあることに気付けるようにする。</li> <li>・「うれしくてたまらない」は何がうれしかったのかを問うことによって, 6の活動のときに思考がつながるようにする。</li> </ul>
<p>4. 行動から読み取れる気持ちを心情曲線で表し, 変化の大きさを比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おかみさんは最初たぬきに怒っていたけど, だんだんかわいく感じているよ。</li> <li>・怒っていたのはきこりじゃないかな?</li> <li>・たぬきは最初はいたずらをしておかみさんを困らせようとしていたよ。</li> <li>・たぬきはおかみさんに助けてもらってありがとうという気持ちになったんだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心人物の定義を基に, おかみさんとたぬきの気持ちを比較して, 曲線の動きが大きいたぬきが中心人物であるということを視覚的にとらえられるようにする。</li> </ul>
<p>5. 題名「<input type="text"/>の糸車」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心人物はたぬきだから, たぬきの糸車だ。</li> <li>・でも糸車はおかみさんの持ち物だよ? 何かおかしくない?</li> <li>・2回目の「キーカラカラ」はたぬきが自分の物のように上手に回しているんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の「キーカラカラ…」はおかみさんが回した糸車の音。2度目の「キーカラカラ…」はたぬきが回した糸車の音であることから, 題名について考えるようにする。</li> </ul>

<p>6. 「たぬきの糸車」という題名をきっかけに、たぬきの「糸車」に対する思いを読み取り、心情曲線に描き加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今度はたぬきの気持ちがどんどん上がっているよ。</li> <li>・冬の間ずっと練習していたから、おかみさんくらい上手になったんだね。</li> <li>・やっぱり、うれしくてたまらないのは糸車が回せるようになったことなんじゃないかな。</li> </ul> <p>7. ふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心情曲線を描くと、気持ちの変化が分かりやすいからこれからも中心人物を考えるときに使いそうだな。</li> <li>・最初は中心人物が分からなかったけど、みんなの意見を聞いてなるほどって思ったよ。</li> <li>・恩返しだけかと思っていただけ、たぬきは糸車が回せるようになってうれしかったんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの心情曲線に、たぬきの糸車に対する思いを書き加えることで、恩返しの気持ちに加え、人間のまねをして上手に糸車を回せるようになったたぬきの喜びや充実感を感じられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価の観点（思考・判断・表現）】</b></p> <p>登場人物の気持ちや行動の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。</p> <p style="text-align: right;">（発言・ワークシート）</p> </div>
---	---

## 6 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手だて
<p>複数の叙述から登場人物の気持ちや行動の変化について、多面的に捉え、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。</p> <p style="text-align: right;">〈発言・ワークシート〉</p>	<p>登場人物の気持ちや行動の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。</p> <p style="text-align: right;">〈発言・ワークシート〉</p>	<p>気持ちや行動を表す言葉に線を引き、その変化を比べるように助言する。</p>

## 7 未来とのつながり

教科構想にもあるように、国語科では、考えを共有することにより他者の思考を知り、自分の思考をさらに変容させ、磨いていく学びのサイクルを大切にしたいと考えている。子どもたち一人一人が思考し、自分の考えをもったときに、さらに、それを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて自分のそれと比べてみたりすることが、より良い考えを作り上げていくことにつながると考える。こうした他者との学び合いを繰り返す中で、個の思考の変容や深化が期待できる。これは未来創造科における、いろいろな視点、多様性を受け入れたりしながら協働的に学ぶことと繋がっていると考える。

本時では、最初の「問い」で中心人物をおかみさんだと考える児童と、たぬきだと考える児童の「思考のズレ」を生み出す。「思考のズレ」が生まれることで児童は、自分と違う考えをもつ友達の意見を聞いてみたいという思いや、一人では答えが出せずもやもやしている気持ちを友達と共有することで解決したいという思いをもつのではないだろうか。相手の思考を考えたり、他者との学び合いから問題解決の方法を見いだしたりすることを通して協働的な学びに繋がりたい。